

## 大工舎

第9回あおもり産木造住宅コンテスト優秀賞受賞

松倉 様邸

ユーザー訪問

八戸市西白山台

2016年6月竣工

■延べ床面積/41.00坪(135.80㎡)

■使用青森県産材/クリ(土台)、スギ(柱、桁、勾配天井、内壁、外壁、建具)、アカマツ(梁)、カラマツ(大引、根太)、ヒバ(浴室)。



2016年6月に完成見学会開催

リビングに現わしに架けられた太い梁。それにまず目が惹かれる。力強い梁だ。その梁の上に梁が直角に交差し、梁の上に柱が立ち、そこにまた梁が架かり……。吹き抜けの空間がまるで木のジャングルジムのようだ。どっしりと床に立つ1尺の

スギの丸太は2階までの通し柱。下から見上げる勾配天井もスギの板張りで、トップライトから射し込む陽光が室内を柔らかく照らしている。奥様が、「娘と床に寝そべって空を見上げるんですよ。」

「雲がみえるんだよ」とお嬢ちゃん。自然の木に加え、天窓を通して借景のように大自然の「空」も暮らしに取り入れている。(第9回あおもり産木造住宅コンテスト「優秀賞受賞」)

——大工舎と出会ったきっかけは？

「雲がみえるんだよ」  
天窓指差すお嬢ちゃん

外壁にスギ板を張り巡らせた松倉様邸。隣に建つ、丸太で組んだカーポート。板壁の味わいと、丸太の野性味を生かした大工舎ならではの造りだ。インターホンを押すと、玄関ドアを開けて出迎えてくれたご主人の脇から、風のように走り出た半ズボンの子。初冬なのに半袖に半ズボンのいでたちは、5歳になるという活発そうなお嬢ちゃんだ。床も壁も天井も「木」のリビングで、薪ストーブが暖かそうに燃えている。無垢材の心地よさをいちばん満喫しているのはお嬢ちゃんのように、逆立ちをしたり、丸太を半割りにした階段を上った2階の手摺りから「木のおじさん」と呼んだり……。手作りのスギ製のテーブルに向かい合い、木のおじさん(平戸憲行代表)が建てた「和風ログハウス」の住み心地を伺った。



まるで丸太で造ったジャングルジムのように見えるリビングの吹き抜け部分



天窓を通して借景のように切り取った「空」が望める開放的なリビング

ご主人の話 ポストに戸別配布の情報紙が入っていたんです。それに見学会のお知らせが載っていました。自然の「木」を使って建てた——という触れ込みに惹かれたのは、そのころネットで、自然素材を使う工務

店を探していたからです。まだ小さい子供がいるので、いちばんの優先は「健康」です。何冊か読んだ本で共通していたのは「建材は体に良くない」で、「体にいいのは無垢の木」ということでした。地元「山の木」で建

てたということにも興味を惹かれ、見学に行ってみました。圧倒されましたね。見えるのがみんな「木」です。縦のものも横のものも、周りの壁も、高い天井も、視界一杯が「木」。他社で見た住宅が壁で仕切った箱

とすれば、大工舎は、木の構築ですね。それを軸組みと言うのでしょうか。嘆息が漏れる思いで天井を見上げたり、室内を見まわしたりしていましたよ。薪ストーブも暖かそうで、そのまま自分の家にしたいくらいでしたね。

奥様の話 見学会のあと、カタログとか資料を取り寄せようと平戸さん（平戸代表）に電話をしてみました。そしたら、「まだカタログを作っていないので、私の自宅を見にきませんか」とのことでした。自宅兼展示場になっているのだそうです。その対応にお人柄というか、朴訥な温かみを感じましたね。拝見したご自宅も、見学会の家と同じに森に在るみたいな「木の家」でした。

## 環境に優しい地域の木 断熱も樹皮と木の繊維

——地域の木を使う、ということに関心があったのですか。

奥様の話 わたし、以前から





木の香りに包まれてゆったりとくつろげるヒバの浴室



天井も床も壁も無垢材が使用されている“和風ログハウス”調の洋室



丸太を半割りにした重厚感ある階段

“おかしいな”って思っていたんですよ、八戸に家を建てるのに、どうしてカナダとか外国から木を運んでくるのかなって。なぜ地元の木を使わないんだろうって。山に樹がないのならいざ知らず、青森県は森林県なのに。地元の樹が地元の気候にいちばん合っているはずなんです。そこに住んでいる人にもね。野菜にしてもそうですよ。遠くから運ばれてくるものより身近な畑から穫れたもののほうが体にいいはず。そう考えてスーパーよりは近くの農家が出品している道の駅から買うようにしているんですよ。野菜も木も同じだと思っんです。そうしたら、わたしとまったく同じ考えで、地元の木を使った家づくりを実践している方(平戸代表)がいたんですよ。八戸からすぐ近くの階上町にね。

それと当社では断熱材も「木」にこだわっているんです。松倉様邸の外壁の外側にはスギの皮を固めたフォレストボード、内側には木の繊維からできたウッドファイバーを張っています。ダブル断熱です。断熱性だけでなく吸音性も高いから静かなはずですよ。(ご夫婦がうなづく)

ご主人の話 西白山台に取得した土地を、平戸さんに見てもらいました。その時点ではもうほとんど平戸さんにお頼みしようとしていました。見学会で圧倒された「木」の印象が焼き付いていて、それを超える住宅は他社にありませんでしたからね。

角地で2方向が道路と接している、玄関を北向きにした場合と、南向きの場合と二通り検討しましたが、南向きのほうが土地が広く使えるという平戸さんの薦めで現在のプランに落ち着きました。洗濯物を干す乾燥室をあえて陽当た



ログハウス風の丸太のカーポートが野性味ある



暖かな薪ストーブのそばでくつろぐ松倉様ご一家

りのいい南側に設けてくれたのも平戸さんです。すぐ乾きますよ。

奥様の話 「合板」は使ってほしくなかったのですが、それを平戸さんに伝えました。接着剤の害が心配でしたから。そしたら、流し台の吊戸棚に合板が使われているのをネットで調べて分かったから、とスギで造り付けにしてくれたんです。普通なら黙ってそのまま取り付けてしまうのでしょうけどね。こっちの身になった細かな配慮に感激しましたよ。



daikusya  
大工舎

二級建築事務士事務所  
知事登録第2677号

階上町大字道仏字泉田窪21-2  
TEL.0178-87-3547 FAX.0178-87-3547  
<http://www.daikusya.com>





## 有限会社 大坊建設

K 様邸

ユーザー訪問

三戸郡田子町下田子

2015年9月竣工

■延べ床面積/平屋建て28.00坪(92.74㎡)

■使用青森県産材/スギ(一部外壁、床、柱、腰壁、天井、浴槽)、ケヤキ(大黒柱)、カラマツ(梁)。



DATA

長期優良に太陽光発電  
水道光熱費が大幅減少

とうに子育ては終わった50代からの家づくり。住むのは夫婦2人だけだから——ワンルームのリビング・ダイニング・キッチンと、寝室。それに遊びにきた孫が泊まっていた部屋があればいい——K様はそう考えた。28坪で足りた平屋に、太陽光発電の設置を薦めたのは、新築依頼を受けた(有)大坊建設の大坊幸吉社長だった。老後を見据えた「終の棲家」だからこそ、やがて始まる年金生活に負担がからぬ「暮らし」に重点を置くべき、と。実現させるのが、長期優良住宅に太陽光発電を併設した「ゼロエネルギー住宅」だ。K様が当初計画していた予算にその分が上乘せされるものの、普通の住宅(一般住宅)と、ゼロエネルギーにした場合との35年間にかかるトータルコスト(生涯コスト)を比較してみたら、驚きの結果が出た。

床はスギ。腰壁もスギの羽目板。天井に見えている梁はカラマツ。どつしりと立つ6寸角(18cm)の大黒柱はケヤキ——K様が大坊建設の完成見学会で気に入った造りと同じに、K様邸のリビングも青森県産材で囲まれた木の空間である。孫が走り回れるように広くとの要望で24帖。そこからドア1枚でト

イレと浴室に接しているのは最後の車椅子対応だ。無垢材のスギ床は直に座る感じがいちばん心地いい。K様、大坊社長と3人、車座になった。  
**K様の話** 水道光熱費って、すごいですね。びっくりしました。月々の料金だけなら驚かないけど、35年間の累計となると、びっくりする金額になります。

1473万円ですよ。ちよつとした家1軒分です。  
——その金額はどのようにして算出したのですか。  
**ご主人の話** 資料にそうあったんです。「35年間の生涯住居費」という比較表です。大坊建設の完成見学会で、大坊社長がその資料を使って説明してくれました。家を建てるのにかかる建築費やローンの利息額などの合計がイニシャルコスト。建ててからかかるのがランニン



夫婦2人の“終の棲家”に潤いを与えるスギの外壁



ケヤキとカラマツ、スギの木肌の色と壁の白がやわらかなハーモニーを奏でるリビング・ダイニング・キッチン

グコストで、最も大きいのが水道光熱費だと知りました。  
**大坊社長の話** K様に説明したのは、こういう内容です。普通の住宅(一般住宅)と、長期優良住宅に太陽光発電を併設したゼロエネルギー住宅とに分けて説明します。

まず一般住宅ですが、例えば1600万円建てた場合、頭金200万円、借入れが1400万円としますね。フラット35を使った場合の35年間の利息額は578万円。所得税などの控除額は125万円ですから、1600万円+578万円から125万円を差し引くと2053万円(A)となります。ここまですがインシヤルコストです。

建ててから始まるのが水道光熱費の支払い。例えば4人家族で年に42万9400円(月平均3万5078円)かかるとしますね。35年では1473

万円(B)。これがランニングコスト。それに、2030年に引き上げられる省エネ基準によって省エネルギーフォームが必要になるので、プラス100万円。2053万円(A)+1473万円(B)+100万円の合計が3626万円、これが35年間にかかるトータルコストです。

——ゼロエネ住宅になるとどうなるのでしょうか。

**大坊社長の話** ゼロエネといっても、エネルギーをまったく使



将来の車椅子生活に対応してリビングの続きに浴室、トイレを設けている





リビングにどっしりと立つ6寸角のケヤキの大黒柱が力強い



居間続きのトイレのドアにも無垢のスギが使われている



室温を上げない遮光カーテンの効果は大きい

わなないということではなく、買う電力と、ソーラーパネルなどで発電して売った電力が差し引きゼロ、あるいは売電の方が上回る住宅のことを言います。

年金生活の負担を軽く  
 快適な木の家で健康に  
 —— 最近よく耳にする「ZEH」(ゼッチ)のことですね。1



ヒノキ張りの浴室。浴槽はスギ製

年間のエネルギー消費量がゼロの住宅のこと。

**大坊社長の話**（大坊社長が額いて）「長期優良」の住宅性能と、「太陽光発電」の設置が加わるわけですから建築費は当然上がります。500万円かかったとします。先ほどと同じに頭金200万円とすると、借り入れが1900万円、35年間の利息が726万円。性能が上

がった分、控除額も多くなつて169万円。イニシャルコストの合計は2657万円となります。

**K様の話** ここまでだと一般住宅に比べて604万円上回っているんですが、水道光熱費で大逆転するんですよ。

**大坊社長の話** 一般住宅より水道光熱費が890万円も下がるのです。信じられないで

しょうが計算すればそうなります。その分、太陽光発電が「稼ぐ」ということですね。しかも住宅は最初から省エネ基準を満たしているのでリフォームの必要もありません。その結果、35年間のトータルコストは3240万円、一般住宅より386万円も下回るようになります。つまり浮いた電気代をローン返済に回したのと同じことになるのです。

しかも高性能住宅で室内温度は一定だからヒートショックもないし、ずうっと健康的に暮らせます。建てるのは3か月、住むのは30年〜40年。どっちが大事でしょうか？

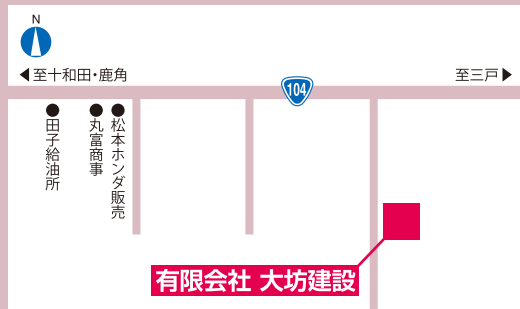
**K様の話** わが家の屋根には30枚のソーラーパネルが載っています。今、どのくらい発電しているか、壁のモニターで「見える」ようになっていきます。この4月に売電のほうを上回りまして。夏場になったらどのくらい発電するか。暮らしの中に「楽しみ」があるついでいいですよ。



## 有限会社 大坊建設

本社 ●三戸郡田子町大字田子字下田子69-4  
TEL.0179-32-3580 FAX.0179-32-3582  
http://www.ii-ie.net/daibou/  
E-mail: kouki299@leaf.ocn.ne.jp

八戸営業所 ●八戸市下長5丁目9-9  
TEL.0178-28-2798 FAX.0178-21-3558





## 玉田工務所

## 床下エアコンの家



青森市浪岡

DATA

2016年11月竣工

■延べ床面積/41.12坪(136.21㎡)

■使用青森県産材/スギ(床、天井、外壁)など。



玉田工務所の「この1軒」として、今回は「床下エアコンの家」をご紹介します。

リビングの床下に取り付けられたエアコンで全室を冷暖房する今話題の最新システムだ。床下でエアコンによって設定された温度がガラリを通して家中の温度が一定になるしくみで、ガラリはキッチンの上にも、洗面所にも階段にも、2階にも付いている。通常、リビングの壁に取り付けるエアコン1台で、家まるごと冷暖房するのだから、求められるのは高い断熱と気密だ。

## 今話題「床下エアコン」 1台で全室の冷暖房を

「床下がこのシステムの『心臓部』です」

と、玉田健悦代表は話す。「まずは基礎の断熱をします。一般住宅の布基礎ではなく、ベース部分を全体に広げたベタ基礎にして、コンクリートで囲った床下の空間をしつかり断熱します。鉄筋の量もコンクリートも工事費も、普通の家の2軒分くらいかかったほど大掛かりでした」

建物の断熱も、壁の内側に

100mmのグラスウールを充填し、

さらにその外側も100mmのグラスウールで覆う付加断熱。屋根はそれよりも厚い300mm。2020年の省エネ基準を満たした断熱性能だからこそ、1台のエアコンでまかなえるのだ。



キッチンの床に設けられたガラリ



全室を冷暖房するリビングの床下に取り付けられたエアコン

## 断熱性能の“見える化” サーモグラフィの目

断熱性の“見える化”に役立つのがサーモグラフィ。玉田代表が、新兵器として導入したサーモグラフィをリビングの壁に向けてると、モニター画面がオレンジ色に染まった。そこが充填した断熱材の部分で、にじんでいる縦の紫色が柱だ。紫色はオレンジ色よりも熱が低いことを示す。機械の



ちょっとした温度差も見逃さないサーモグラフィ



明るい陽光が射し込む大開口の窓







小上がりの和室の2方向に付いている障子を閉めれば個室としても使える



和室の下部には奥行きが1間もある収納の引き出しが設けられており、布団も収納できる



ロフトが設けられた2階の子供用スペース



現わしの梁が交差する吹き抜け部分



エアコンはリビングの右端、カウンターの扉を開けると床下に設置されている

「目」はちよつとした温度差も見逃さない。

「色の違いが表れるのは、まだ建物が完成したばかりで、暖房を開始してからさほど時間が経過してないので蓄熱されていいためです。ゆくゆくは紫色も軽減されます」

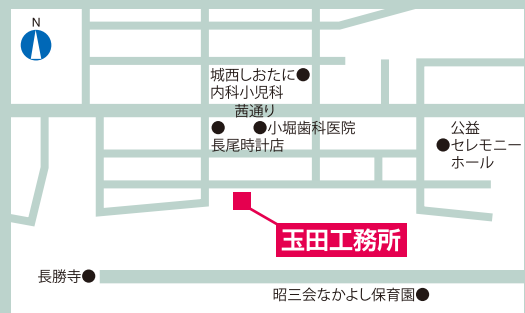
間取りは、吹き抜けに梁が現わしの広いリビングを中心に、対面式のキッチンと、小上がりの和室が配置されている。居間階段を上った2階は伸び伸びとした子供用のスペースで、将来は壁で区切るのだそうだ。子供たちが喜びそうなロフトもある。

床が無垢のスギ板、壁が白いエコクロス(天然素材が原料の壁紙)、勾配天井もスギ板で、白木と白壁とに囲まれた柔らかく明るく開放的な空間だ。渋い色使いを特徴とする玉田工務所の家づくりのバリエーションが広がる1軒となった。

(設計・監理 侑西方設計)

## “津軽の家” 玉田工務所

弘前市大字南城西2-7-4  
TEL.090-2604-2967  
<http://www.tamada.e-arc.jp/>  
E-mail : sumai@tamada.e-arc.jp







# 1952 HINOKIYA

## 一級建築士事務所

角田 様邸

ユーザー訪問

DATA

三沢市松原町

2011年12月竣工

■延べ床面積/45.84坪(151.54㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台、1階床、天井、大黒柱、外壁)、スギ(柱、2階床)、アカマツ(梁)。

「回遊動線の間取りがとても使いやすいですよ」と奥様は話します。各部屋が引き戸でつながっていて、キッチンから食品庫へ、食品庫からクローゼットへ、さらに洗面脱衣室へも行けるようになっていて。洗面脱衣室は玄関ホールにもつながり、ホールから和室にも行けるし、和室はリビング、ダイニング、キッチンにも続いている。「2階もそ

うなんです。娘たちの部屋も行き来できるし、外のベランダに出れば主寝室へも行けるんです」。角田様邸は部屋だけでなく、家族の心もまた回遊動線につながっているようだ。(2013年実施の「第5回あおもり産木造住宅コンテスト」で優秀賞受賞)

——土地探しの段階から柗澤氏が同行してくれたそうですが、

ご主人の話 家を建てるのに条件がいいかどうか、専門家が見てくれるのですから、心強かったですね。この土地は、南側に道路があつて、間口が広く、陽当たりの良い方向に部屋を並べて取れるから好条件、との判断で決めました。住宅地をちよつと奥に入っただけに、車両は少ないし、子供たちが外で遊んでも危なくないし、静かだし、街なかなかのに窓を開

## 伝統構法の「木組み」 地域材のヒバ、スギで

「一級建築士の弟」が設計してくれる家づくりほど施主にとって安心なことはないだろう。角田様の奥様と、一級建築士の柗澤卓馬氏は、ご姉弟なのだ。ましてや実家が木材店なので、使う木材が身内の目で選ばれることも心強い。実家は地元で三代続く檜屋木材店。柗澤氏が、青森県産材のヒバやスギ、アカマツを多用するのは、実家が木材店ということだけでなく、地域の林業や森林環境に少しでも貢献できればという想いからだ。角田様邸に伝統構法の「木組み」を採用したのも、建物が役目を終えても部材を再利用できるといふ、先々の環境への配慮からだ。木と木を組む力強さと、木肌と珪藻土の色合いが調和した、古さの中にも新しさがあるモダンな造りの「木の家」を紹介する。



木肌と珪藻土の色合いが調和した、モダンな造りの「木の家」



職人の高い技術がうかがえる伝統構法の「木組み」で造られたリビング

ければすぐ隣に杉林があつて山のような雰囲気も気に入つていきます。たまにキジの鳴き声も聞こえるんですよ。

**奥様の話** お客様が来られたときに、そこ(窓の外)に車を駐められるのがすごく便利です

ね。うちの土地じゃありませんけど。

**樫澤氏の話** 敷地の前の道路は突き当たりになっていて、そこには「転回広場」が設けられていました。車を転回させるためのスペースですね。万一、迷っ

て入ってきた車の転回の邪魔にならなければ駐車していても迷惑になりません。

——**間取りに特にこだわった点がありますか。**

**ご主人の話** 凶面をまず作つてもらつて、それをたたき台に

打ち合わせしました。1階はキッチン、ダイニング、リビングと和室が一つ。2階は娘たちの部屋と、寝室。それを陽当たりよく配置してもらいました。

(樫澤氏が)「伝統的な造りの家になりたい」とのことだったので、造りに関しては全面的に専門家にお任せしました。

**樫澤氏の話** 私、以前は横浜市の設計事務所に勤めていました、そのときはほとんどがマンションの設計でした。八戸に帰ってきて手掛けることになった木造住宅の第一棟目が姉夫婦の家だったんです。大工の技術と、地域の木材を活かした家づくりを目指して、伝統構法の「木組み」を採用しました。木と木を組んだ力強さを室内に現わしにしたのは、住み手に安心感を与えるからです。

**手足に触れる無垢の木  
柔らかく優しい素材で**

**ご主人の話** 壁の中も、金物を使わない伝統の「通し貫」に





無垢の木が優しい光を放つダイニング。天井に見えるヒバの梁が力強く、安心感を与える



壁の中の「通し貫」<sup>ぬき</sup>を、見えるように階段の手摺りに取り入れた

なっているんだそうです。2階の階段の手摺りがその「通し貫」で作られていて、リビングの梁みたい目に目に見えるようになっていきます。細い柱を立てた飾りの手摺りよりは、壁の中にも大工技術が活かされているんだなと思いが至りますね。

—— パソコンに角田様邸の写真が載っているので職場の方が驚いたそうですが。

ご主人の話 県のホームページなんです。「青森県林政課」を開き、「県産材木造住宅」を検

索すると、「あおもり産木造住宅コンテスト」で最優秀や優秀賞を受賞した家の写真が載っているんですよ。第5回コンテストの優秀賞の中にわが家があります。

職場の同僚から、「どんな家なんですか？」って聞かれたので、パソコンで写真を見せたら、え、なんで、って驚いていましたよ。たぶんその同僚も家を建てる計画があるのでしょう。

椀澤氏の話 無垢の木をなるべく多く使うようにしているの



ヒバの天井と珪藻土の壁、琉球畳の色彩が落ち着いた風情を醸し出す和の空間

は、毎日手で触れたり、足に触れる物は柔らかく優しい素材であってほしいと考えるからです。基本的に1階はヒバ、2階はスギです。1階はヒバの香りが来客をもてなすように。2階は寝室の床が素足に柔らかいから。それと無垢材は、キズがついたり、変色したりしても「味」になりますね。大黒柱に

触れると伝わってくるどっしり感、自然の木ならではの存在感があつて、木に護られているという安心感も生まれてきます。  
**ご主人の話** 建てた当初、遊びにきた知り合いのアメリカ人が、「日本っぽい家だ」と褒めてくれました。彼が言うには、日本の家はアメリカに比べて安っ

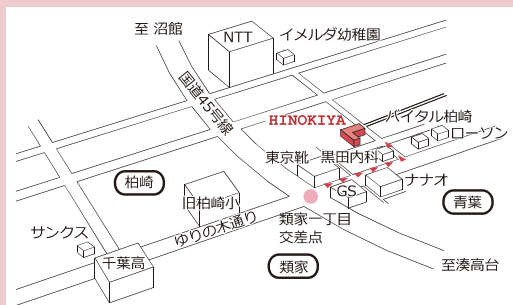
ぽいと思っていたんだそうです。外壁のサイディングとか床の合板フロアとか、規格化された工業製品を使っているので、長年使っても劣化ばかりが目立って味が出てこない、と。ところが家が本物の木を使っている。そこが日本っぽく感じただけでしょうね。外人がわが家の価値を認めてくれたんです。



1952 HINOKIYA

一級建築士事務所  
有限会社 檜屋木材店内

八戸市柏崎三丁目8-13  
TEL.0178-43-3848 FAX.0178-41-1002  
<http://facebook.com/hinokiya>  
E-mail: 1952hinokiya@gmail.com





## 三浦住建

## 内山 様邸

ユーザー訪問

DATA

平川市唐竹

2016年11月竣工

■延べ床面積/60.00坪(198.74㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、一部内壁)など。



## 薪になるリンゴの老樹 くべながら、ありがとう

玄関ドアを開けると、目の前のホールに薪ストーブが鎮座していた。「わが家の主役ですよ」とご満悦そうな内山様。リンゴ農家のご主人は、暖房は初めから薪ストーブと決めていたそう。3ヘクタール(約3000坪)の広大なリンゴ畑から穫れるのはリンゴだけでなく、毎年伐り倒すリンゴの老樹も薪として得られるのだ。「ありがとうな」と心の中でつぶやきながら薪をくべるとい。燃えたあとの灰は春先に畑に撒いておけば肥料になる。リンゴを実らせ、薪になって家を暖め、土に還っても肥やす。「リンゴの樹ってありがたいものですよ」。ご主人は朝起きれば、顔を洗うより先にストーブのガラス窓を磨くことから始めるという。感謝の心に、ぬくもりが伝わる薪ストーブライフをご紹介します。

内山様と三浦住建の三浦和也専務は従兄弟だそう。ご主人の母親と、三浦専務の父親(三浦清造社長)が姉弟。以前から増築や改築を三浦住建に依頼してきたが、今回は築70年の母屋を解体して建て替える

という大きな仕事となった。ご主人が三浦専務に伝えた要望は、①薪ストーブ②ドアのない空間③解体した木材を生かす——この3点。リビングのテレビボードには以前の家のケヤキの柱を使い、和室の外部に幾



現場から出た木材の端材を張り合わせた“木タイル”。1枚1枚大きさも色も厚みも違う味わいがある(左は拡大写真)



テレビボードの両サイドのボックスに四角い津軽塗の“漆タイル”を貼っている

何学模様デザインした“木の壁面”にも梁などの古い部材を利用して。階段脇の壁面を飾る“木タイル”は、現場から出た木材の端材を張り合わせたもの。内山様邸のテーマは“循環”なのだ。

——階段の壁面の“木タイル”が味わいありますね。

ご主人の話 専務(三浦専務)が提案してくれたんです。建築現場で出る端材の有効利用ですね。1枚1枚大きさも色も厚みも違うから味わいがあるんです。単なるクロスを貼ったのでは質感がぜんぜん違いますね。

テレビボードの両サイドのボックスに、四角い津軽塗を貼ったデザインも専務が考案デザインしてくれたもので、こっちは“漆タイル”と言うんだそうです。縦に5枚ずつ貼っています。津軽塗職人に頼んで作ってもらっ

たそうですよ。夕方になればボックスに明かりが点くようになっていきます。木タイルも、漆タイルも、わが家の“イッピン”ですよ。

——奥様のご要望は何でしたか。

ご主人の話 (家内の要望は) ドアがないこと、です。開放的に使いたいと。だから、玄関ホールとリビングとキッチン、ダイニングにはドアがなく、つな



玄関ホールとリビングとキッチン、ダイニングにはドアがなく、つながっている





玄関ホールに鎮座している内山家“主役”の薪ストーブ。伐採したリンゴの木を燃やしている

がつているんです。2階も、個室  
以外はドアをつけずに奥のサン  
ルームまで広くとって、そこも  
吹抜けを通してストープ1台  
ですぐ暖まるから洗濯物がよ  
く乾きますよ。寝室のドアを少

し開けておけば、今(11月末)で  
もタオルケットに夏用の掛け  
布団でも暑いくらいです。断熱  
性が桁違いですね。  
——薪はどこに置いてあるの  
ですか。

ご主人の話 (玄関ホールの物  
入れの戸を開けて)ここです。リ  
ンゴの収穫に使う竹かごが、薪  
を入れておくにはちょうどいい  
んですよ。底に新聞紙を敷けば  
木屑もこぼれませんか。なく



リビングの吹き抜け部分を通して暖気が2階まで届く

なれば離れの物置から竹かご  
で運んでくるんです。  
——リンゴの樹は苗木から育  
てるのですか。

ご主人の話 そうです。指一本  
くらいの太さで、高さは1mく  
らい。それが30年も経てば、幹  
に回した両手が届かないくら  
いに太くなるんです。いっぱいリ  
ンゴを実らせて、盛りを過ぎれ  
ばあとは歳を取るだけなのは  
人間と同じですよ。50年から60  
年で伐採したあとに、また新し



玄関ホール右手、入り口の襖戸を開ければヒバと畳の匂いが清々しい和室

い苗木を植えます。いわばリンゴ畑の新陳代謝で、これも循環ですよ。毎年毎年伐り倒すから薪に困ることはありません。それで暖房は初めから薪ストーブに決めていたんです。燃えて、灰になって、肥料になる。捨てるどころがありません。



2階も個室以外はドアをつけずに広々とした空間になっている。奥がサンルーム

**解体した家の木生かす  
端材も壁の木タイルに**  
——薪ストーブにぞっこんのようですね。  
ご主人の話 朝いちばんに、炎が見えるガラスを磨くんです。初めは洗剤をつけてこすっていったんですけどね、「灰汁あじがきれい

ばん落ちる」って聞いて、試してみたら、ほんと、よく落ちます。ピカピカになります。昔の暮らしって、稲ワラにしても捨てないでムシロやゴザを編んで使っていたんですよ。そんなことにまで思いが及ぶようになりましたよ。

——古い木が生かされた家になりましたね。

ご主人の話 解体して捨ててしまうのはもったいなくてね。もったいなというよりも、築70年ともなれば、「木」にも思い出が染み込んでいるような気がしてとても捨てられません。母屋には祖父と祖母と父と母が住んでいました。私は結婚してからは離れて暮らして、娘たちは大きくなつてから母屋の隣の小屋に増築した2階に住みました。今はそこに父と母がいます。これもまた世代の循環ですね。

職人の技を生かした住宅を!

# 三浦住建

弘前市取上3丁目2-6  
TEL.0172-33-0597 FAX.0172-33-0597



株式会社 **三ヨシプラス**

## 小笠原 様邸

## ユーザー訪問

## DATA

三戸郡五戸町

2016年11月竣工

■延べ床面積/41.00坪(135.8㎡)

■使用青森県産材/スギ(柱)、アカマツ(梁)など。

小笠原様邸が竣工した11月半ば、完成見学会が開かれた。並んで建っている奥の平屋が会場だ。手前の家は奥様の実家で、慣れ親しんだ実家に合わせて自宅も平屋にしたのだそう。また20代の若夫婦にふさわしい白壁のおしゃれな外観。玄関ドアを開けると、筆字で書かれたボードが置かれてあった。『見築』のまえに笑顔で一言ほめてください。あなたのやさしい「気」がおうちの「木」に

## 漆戸サンタやってくる 出合いの「縁」に感謝

毎年クリスマスになると、県南地方には「漆戸サンタ」がやってくる。赤い服を着て、白いヒゲをつけた「漆戸サンタ」。(株)三ヨシプラスの漆戸悟社長が、ユーザーのお宅を中心にサンタに扮して回る「イベント」である。「弊社で建てていただいたのも、見学会でお会いしたのもすべて「縁」です。その出合いの縁に感謝して手作りのプレゼントを配りながら回るんですよ」と漆戸社長。始めてから8年目、年々回る軒数が増え、2016年は約120軒にもなった。そのうちの1軒に、11月に竣工した小笠原様邸が加わった。

伝わりますから。』。ト イレのドアの前にも、『居心地よくても長居は無用です。次の方がお待ちです。すみやかに席をお譲り願います』——くすりと、と笑いを誘われる。居室も廊下の床板も足に柔らかな無垢材。リビングと寝室の壁には調湿効果の高い珪藻土。見学会の1か月後、「呼吸する」無垢材と珪藻土に囲まれた住み心地をご主人に伺った。



重厚な木のテーブルが置かれたキッチンとひと続きのリビング

——小笠原様と漆戸社長の「ご長男(大工)は同じ中学だそうですね。」

ご主人の話 小・中学と同じでした。私が二つ上ですけどね。野球部で一緒だったんです。今も、町内会のソフトボール大会で彼と一緒にプレーしていますよ。

——そういうつながりでした





“呼吸する”無垢材と珪藻土に囲まれた快適なリビング(左手が玄関ホール、右手が洗面、浴室の水回り)



無垢材の感触が足に柔らかな玄関ホールと廊下。ガラス戸を開ければリビングに続く

ら、最初からミヨシプラスに  
頼むと決めていたのですか。  
ご主人の話 いえ。初めのうち

はいろんなところを見て回って  
いました。新聞広告とかチラシ  
で見た見学会とか。数えきれな



寝室の壁には調湿性や脱臭性、耐火性に優れた珪藻土が使用されている

となると、彼でした。

——20代半ばでローン  
を借りて家を建てる  
ことに不安はありま  
せんでしたか。

ご主人の話 家を建  
てなくてもアパートの  
家賃を払わなければ  
なりませんから、同じ  
ことですよ。いくら  
払つてもアパートは自  
分のものになりませ  
んね。結婚した3年前  
にもう家を建てよう  
と思っていました。

——見学会のときに、  
漆戸社長が来見者に  
リビングの珪藻土の  
効果を力説していま  
したが、実際に住ん  
でみてどうですか。

ご主人の話 室内の  
湿度が高くなると吸湿して、反  
対に乾くと湿度を放出する効  
果がある、とは漆戸社長から聞  
いていました。だから快適なん  
だと。でも、「快適」って、空気み

いくらい見ましたよ。でも、実  
際に自分の家を建てることと  
と、間取りとかローンのことと  
か具体的に相談しなきゃなら  
ないわけで、相談しやすい相手

たいで実際には感じないもので  
すよね。寒いとか暑いとか、不  
快な感覚なら意識するんで  
しょうけどね。何も感じないか  
ら、快適なんですよ。

## 無数の孔で吸放湿効果 呼吸する無垢と珪藻土

漆戸社長の話 太古の植物性  
プランクトン(珪藻)が永年に  
わたって海底や湖底に堆

積して化石化したもの  
が、珪藻土です。石灰化し  
たプランクトンの遺骸の  
表面に、無数の孔あなが空い  
ていて、それが活性炭の  
ような吸放湿効果をも  
たらすのです。珪藻土は  
火にも強く、昔から七輪  
やコンロ、耐火レンガな  
どの原料に使われてきま  
した。ちよつと専門的に  
なりますけど、「ナノメー  
ター」といって、1mm  
の100万分の1単位と  
いう孔が無数にある「超  
多孔質構造」が、調湿性

や脱臭性、耐火性を発揮するの  
です。最近では、ホームセン  
ターで浴室の出入口に置くマツ  
トとしても売り出されていま  
すね。濡れた足裏がさつと乾  
く。壁も同じで、霧吹きで吹き  
付けた水の跡がすうっと吸い込  
まれるように消えます。目に見  
える吸湿効果です。

——ミヨシプラスの家の〝看



無垢材の心地よさにニコリのお子さん



白と木目を基調とした清潔感あふれる洗面スペース。正面の戸を開ければ洗濯物がよく乾くという南向きのサンルームになっている

板”にもなっている寝室の床に使う桐材にも調湿効果がありますね。

**漆戸社長の話** 小笠原様邸もそうですよ。桐にも湿度を一定に保とうとする性質があるのです。桐に限らず弊社が「生き

ている”無垢材を使うのは、そうした自然素材の特性を住まいに生かすためです。

——木を長持ちさせるために防腐防蟻剤にもこだわっているようですね。

**漆戸社長の話** 木造住宅の寿

命を左右する最大の原因は「腐朽」と「シロアリ」です。この二つを予防することが住宅の長持ちにつながります。日本で使われている防腐防蟻剤は、欧米諸国ではすでに使われていない農薬系薬剤で、施工する業者にも

良くないし、揮発成分でシックハウスの危険があるためその家に住むお客様の健康にも良くありません。さらに、新築時から最長5年間しか効果がもちません。自然素材の家をうたついても、防腐防蟻剤まで配慮している会社はまだまだ少ないのが現状なんです。

弊社では、ホウソ系防腐防蟻剤・エコボロンPROを標準で使用しています。舐めても安全で、木材に染み込んで揮発しないので半永久的に効果が継続するのです。

いえ しあわせ ゆめ  
家づくり 幸づくり 夢づくり



株式会社 ミヨシプラス

八戸事務所

八戸市石堂3丁目3-9 2階

TEL.0178-80-7357 FAX.0178-80-7318

E-mail : info@miyoshiplus.jp





# 県南地域伝統建造物 視察研修ツアー



7月23日(2016年)、午前9時。集合場所のデリーー東北新聞社本社前に大型観光バスが到着した。一列になって乗り込むのは「県南地域伝統建造物視察研修ツアー」の参加者37人。八戸市小中野に今も残る明治の建築の新むつ旅館(国登録有形文化財)を皮切りに、対泉



遊郭の造りが残る八戸市の新むつ旅館

院(市指定有形文化財)、糠塚大慈寺(市指定有形文化財)、午後から五戸町の江渡家住宅(国重文)、消防団第一分団屯所(県重宝)、旧圓子家住宅(県重宝)を巡るのだ。

主催は「青森の歴史的建造物を守る会」(会長・月舘敏栄前八戸工業大学大学院建築工

学専攻教授)。バスの中で事務局の大山重則氏(㈱大山建工社長)が、「今日これから見学する建物に使われているクリやアカマツ、ケヤキなどは、すべて県南の山から伐り出された木です。建てたのも地元の大工です。伝統建造物を支えている、この地域の木と技の素晴らしさを、改めて認識していただければ」と開催趣旨を述べた。

## 伝統建築支える木と技 地域の財産として継承

かつて花街として栄えた小中野新地で今なお旅館業を継続している新むつ旅館。踊り場から左右に別れるY字型階段や、橋を想わせる渡り廊下など随所に遊郭ならではの造りが見られるが、館内だけでなく、外壁にも珍しいものが残されている、と講師の月舘会長から説明があった。

「修復を行った際に、外壁の板に染み込んでいる白い粉が発見されました。調べてみたら小

中野公害と呼ばれた石膏の粉塵だったんです。それが、117年間ここに建ち続けている建物に生きた証として記録されていたということですよ」

対泉院の次に訪れた糠塚大慈寺の「山門」と「経蔵」は、今年新たに県重宝に指定される予定だという。山門の出入口の形



ことじ かとう  
糠塚大慈寺の「山門」。楼門に琴柱火燈を取り入れた他に例のない意匠



「転輪蔵」と呼ばれる八角形で回転する経棚

式や、転輪蔵てんりんぞうと呼ばれる八角形で回転する経棚は、県の新たな文化財となるにふさわしい貴重なものだそうだ。境内に建つ案内板にはこう書かれてある。『山門の構造は、三間一戸さんげんいっこの楼門形式で、屋根は入母屋造になつています。……』。出だしを一読して理解できるのは専門家か、よほどの「通」の人だろう。説明文はこう続く。『一階は正面中央の間が琴柱火燈ことじかとうの形式を取り入れているのが特徴で

す。琴柱火燈は、琴柱の形をした火燈窓の一種で、窓の意匠としてはよく見られますが、楼門の中央間の意匠としては例のないことです。……』

「琴柱火燈」を「ことじかとう」と読めるのはルビが振られているからだ。「琴柱」とは琴の音を調整するため絃に立てる「人」の形をしたもの。「火燈」とは寺社や城郭に見られる上枠を火炎形にした窓の一種で、この琴柱の形をした火燈窓の形式を、

楼門の出入口に用いた例は「他がない」という。つまり「ここでしか見られない」極めて珍しいものなのだ。

一方、山門の脇に建つ経蔵の、回転する八角形の経棚も珍しく、月舘氏は、「糠塚大慈寺はあまり知られていませんが、もつと有名になつてもいい価値あるものです」と強調した。

築200年を超える、五戸町荒町の江渡家住宅。大きな茅葺屋根の勾配の途中に煙出しが付いているところが南部地方の茅葺の特徴、と月舘会長。現在も住んでいる家主の江渡氏が室内を案内してくれた。奥座敷の欄間に残っている本物のなぎなたや槍。十勝沖地震など幾多の大きな揺れにも耐え、江戸後期からの時間を刻み続けている木



茅葺屋根の勾配の途中に煙出しが付いているところが南部地方の茅葺の特徴の江渡家住宅

造住宅に参加者たちは驚きの溜め息を漏らしていた。

旧圓子家住宅を見学し、そのあと庭で記念撮影。帰りに大山氏が、「山の木と大工の技は、地域の財産です。その象徴が伝統建造物です。今後も木を育て、大工の技を磨き、次世代へ引き継いでいきたい」と述べ、車内に賛同の拍手が起こつた。



# 森林ウォーキングマップ

Forest Walking Map

森林歩道地図



☎0175-23-6855 「マップ」ご希望の方は、下北地域県民局地域農林水産部林業振興課まで



(関連ページ)

森林ウォーキングマップ：①大安寺山やすらぎの森公園(むつ市大畑町)②東北自然歩道薬研温泉と溪流のみち(むつ市大畑町)③川内渓谷(むつ市川内町)④家ノ辺地区(むつ市川内町)⑤東北自然歩道霊場恐山参拝のみち(むつ市)⑥早掛沼公園歩道(むつ市)⑦水源池公園歩道(むつ市)⑧牛の首地区(むつ市脇野沢)⑨東北自然歩道北限のニホンザルとむつ湾展望のみち(むつ市脇野沢)⑩仏ヶ浦地区(佐井村)⑪箭根森(やのねもり)八幡宮地区(佐井村)⑫薬師山地区(佐井村)⑬シーサイドキャトルパーク大間(大間町)⑭折戸神社(風間浦村)⑮憩いの森公園(風間浦村)⑯立石大明神(風間浦村)⑰尻屋崎地区(東通村)⑱猿ヶ森自然環境保全地域(東通村)